

4 社会に生きる一員として

(1) 法やきまりを守り社会で共に生きる

P.134~145

4-(1)

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。

1 この内容項目のページの特徴

法やきまりによって社会の秩序が保たれ、秩序と規律を守ることで個人の自由が保障されている。そのことを踏まえ、法やきまりの意義を理解し、権利を正しく主張し、自らに課せられた義務を確実に果たそうとする態度を養い、よりよい社会の実現を目指す気持ちを高めることが重要である。

一三四ページでは権利と義務の側面から法やきまりを捉え、一三五ページでは、身近なきまりを示しながら、これまでに学んだことを振り返る。一三六ページでは、社会をスポーツに例え、ルールを通して法やきまりの意義について理解を深める。一三七ページでは、法やきまりを守ると同時に、よりよいものに見直していこうとする意識を高めるようにしている。

様々な問題が発生した場合、きまりがなかったらどうなるかを考えさせるとともに、西村雄一氏の「メッセージ」や先人の格言などを通して人物の生き方や考え方に触れ、社会生活において守るべき法やきまりを大事にする態度を養い、日々の実践につなげていくようにしたい。

2 活用のポイント

中学生になると社会の仕組みもある程度理解し、社会の一員としての生活の仕方についての自覚も深まる。し

められるかなどについて考える。

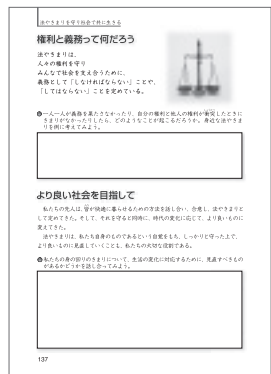
■ 社会科（公民的分野）

人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えるようにする。

事例

① 一三七ページの上段を読み、一人一人が義務を果たさなかつたり、自分の権利と他人の権利が衝突したときにきまりがなくなったら、どのようなことが起こるか、身近な法やきまりを例にして話し合う。

② 一三七ページの下段を読み、身の回りのきまりについて生活の変化に対応するために見直すべきものがあるかを話し合う。



P.137

◆ この人のひと言

「義務心をもっていない自由は

本当の自由ではない。」

夏目漱石の講演録「私の個人主義」に出てくる言葉で、自由と義務の関わりについて語られている。この言葉の背景となった漱石の考えを知り、「本当の自由」とは何かを考えることができる。

かし、法やきまりについては、その意義を理解しつつも自分を拘束するものとして捉え、反発を感じる場合も多。一方、他者のルール違反や不当な権利主張などには批判的な態度を示すこともある。

指導に当たっては、こういった批判的な経験も想起させながら、社会の秩序と規律を高めるために必要なことを考えさせ、実践にまで高めていくようにしたい。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

社会の一員として、社会の秩序や規律を保つことの重要性を認識し、そのために法やきまりが果たす役割についての理解を深める。

事例

- ① 一三六ページを読んで、法やきまりを守る意義について考え、発表し合う。
- ② 読み物資料「二通の手紙」を読んで話し合う。
- ③ 一三七ページの上段の問いについて意見を発表し合う。
- ④ 一三七ページの下段を読み、よりよい社会や学校、学級を目指すためのきまりとは、どのような意味をもつか、そのよりよい在り方を実現するためには何が求

◆ メッセージ（西村雄一）

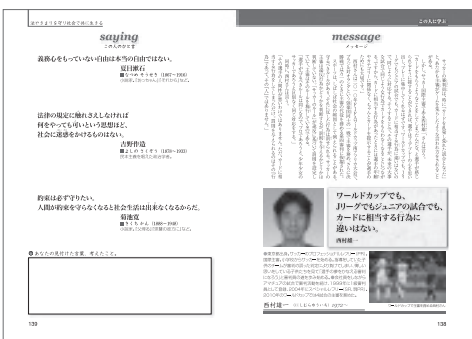
「ワールドカップでも、

Jリーグでもジュニアの試合でも、

カードに相当する行為に違いはない。」

「カードをもらうようなことをしてしまったんだな、と選手が感じられるように接することができれば、選手はフェアプレーの心を思い出し、プレーに集中してくれるはずですよ。」と語るサッカー国際主審の西村雄一氏。西村氏のこの考え方に触れ、ルールの意義を考える。特に、年齢や経験の区別なく公平に対応する点についても押さえるようにする。

この「メッセージ」を活用して、例えば、なぜ西村氏は年齢等に関係なくカードを提示することが選手のためになると考えているのか、西村氏が考えるルールとはどのようなことかなどについて問い掛け、きまりの意義などについて考えさせることができる。



P.138~139

1 資料の特性

主人公の元さんは、動物園の規則を知っていないながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまふ。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることとなった。

姉弟の母から届いた感謝の手紙と動物園側から届いた懲戒処分の通告書。元さんが手にした「二通の手紙」は、社会における人間としての生き方について考える機会を与えてくれる。

本資料は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

元さんの行為は、規則に違反した行為であり、万一、姉弟に事故でもあった場合には、軽はずみな行為として非難されることにもなる。しかしながら、この元さんの行為は、姉弟を思いやった行為であり、心情的な共感とともに懲戒処分に対する疑問や反発の気持ちも湧いてくる。

指導に当たっては、元さんの思いについて話し合ったり、元さんの判断を巡る道徳的な葛藤について話し合っ

してしたことだったにせよ、それで済まされることではない。

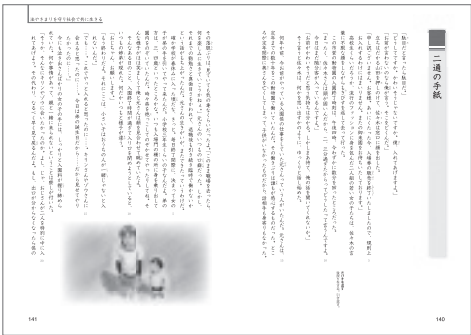
- ・ 規則を破ると、結局は、多くの人に迷惑をかけることになるということも考える必要があった。
- ④ この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。

事例②

元さんの判断を通して、社会における法やきまりの意義を考える展開

【主な学習】

- ① 規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対かについて考え、その理由も含めて意見を交流する。また、相手側の意見を聞いて考えたことも述べる。※ 弟の誕生日だからという姉の思い、また、重大な事故が起きることもあるということについても考慮して考えさせるようにする。
- ② 自分が元さんの立場だったら、このようなとき、どのように対応すると思うか話し合う。
- ③ 法やきまりはなぜあるのか、それを破ることのできるような問題が起きるのかについて話し合う。



P.140~141

たりして、社会における法やきまりの意義やそれを遵守することの大切さについて考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。

事例①

元さんの思いを通して、法やきまりを守ることの大切さを考える展開

【主な学習】

- ① 元さんは、なぜ、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろうか。
- ・ 毎日、園内をのぞいていた姉弟の思いに同情し、弟の誕生日を祝ってあげたいという姉の気持ちに心を動かされたから。
- ・ 入園終了時刻は過ぎたけれど、まだ、閉門時刻は過ぎていない。今ならまだ大丈夫だろうと思ったから。
- ② 母親からの手紙を読んだ元さんは、どう思っただろうか。
- ・ そんなにも姉弟が喜んでいたなんて。そのことは、本当によかった。
- ・ 人としての行いは、間違っていないつもりだが。
- ③ 「二通の手紙」を見比べながら、元さんが考えていることは、どのようなことだろうか。
- ・ 入園係としての義務を考えると、規則の意味を考えて判断すべきだった。
- ・ 重大な事故になることも考えれば、姉弟の事情を察

四の視点 重点ページ

一人一人が守るべきものがある

1 このページの特徴

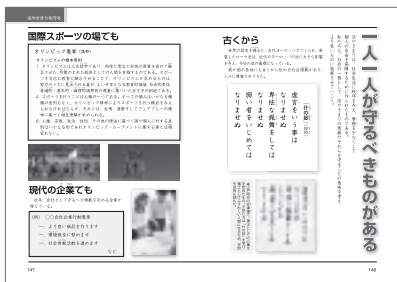
いつの時代にも守られてきたきまりがある。明確に定められた法はもちろん、明文化されていない約束も規範の一つとして言い伝えられてきた。これらの規範を守ることは、自分が社会の一員としての自覚をもって生きることにつながる。

このページを通して、どの時代にも、どのような場面においても、社会や集団における共通の規範があることに気付くことができる。また、法やきまりを守ることが、社会の秩序と規律の維持につながるということが、考えてことができる。

2 活用事例

道徳の時間

自分たちの守るべき身近なきまりなどについて話し合い、きまりを守ることの意義や自他の権利と義務について考える。



P.146~147

P.146~147

4 社会に生きる一員として  
 (2) つながりをもち住みよい社会に

P.148~159

4-(2)

公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

公徳心と社会連帯についての理解と実践意欲を高めることを目的とする内容項目である。公徳を大切にすることが、一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。自分たちが生活する社会が誰にとっても住みよい環境であるために、よりよい社会の実現に向けた一人一人の努力の積み重ねが必要である。

一四八・一四九ページでは、学校生活や毎日の生活を振り返って、公徳心や社会連帯の大切さについて考えることができる。また、一五〇ページを活用し、日常生活の中で他者への配慮や思いやりのある行為に遭遇したことを振り返り、公徳心について考えることもできる。さらに一五一ページのグラフを活用し、社会に対する興味や関心について考え、進んで社会と関わろうとする意欲を高めるようにしたい。

2 活用のポイント

自己中心的な身勝手な言動は、周囲を不愉快にさせ、社会の秩序にも悪影響を及ぼすものである。よりよい社会を実現するためには、相互に配慮し、協力して生活を築くことが大切である。ここでは、日常を振り返り、当たり前の心遣いが住みよい社会をつくっていくということ

背景を関連付けて考察するようにする。

一五二ページの「人物探訪」を読み、人々の幸福のために生きる姿から、社会に役立つとする渋沢の強い思いについて話し合う。

特別活動（生徒会活動・学校行事）

一五〇ページの「他者への配慮、思いやり」を読んで話し合い、相手への気遣いで住みよい社会が築かれることに気付くようにする。また、自分さえよければよいという心無い言動を見掛けたときの不愉快な経験を思い出し、そうした言動は、相手への思いやりのなさに起因していることに気付くことができるようにしたい。その上で、一四九ページの「公徳心、社会連帯の大切さ」を活用し、自分たちの学校生活を振り返って、一五〇ページのようなキャッチフレーズやポスターを作成し、校内や地域に掲示するなどして、集団や社会の一員としてよりよい学校、生活づくりに参画しようとする態度を育てる。また、ボランティア活動などの奉仕的行事を行う際の事前・事後に本内容項目のページを活用することで、活動の意義を考えることもできる。

家庭との連携

公徳心や社会連帯の自覚を高めるためには、社会全体に目を向けることが大切である。そのため、本内容項目のページについて家庭で一緒に話し合ったり、町で見掛けた他者への配慮や、思いやりがあると思ったり行為について家の人と話し合うなどして、様々な視点から社会全体に目を向けて、公徳心について考えるようにしたい。

とに気付かせたい。また、渋沢栄一の「人物探訪」や大船渡市立第一中学校の「メッセージ」を通して、社会連帯の意義やよりよい社会の実現のために自分たちにできることはどのようなことかについて考えさせるとともに、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を高めるようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

「メッセージ」と「人物探訪」を活用し、社会連帯の大切さについて考える。

事例

- ① 一五三ページの「メッセージ」を読み、感じたことを話し合う。
- ② 一五二ページの「人物探訪」を読み、渋沢の言葉の意味を考える。
- ③ 一四九ページの書き込み欄に公徳心や社会連帯の大切さについて考えたことをまとめて記入する。

社会科（歴史的分野）

歴史上の人物に対する生徒の興味や関心を育て、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて、時代

◆人物探訪（渋沢栄一）

「いくら年をとっても

人間を辞職するわけにはいかん」

『論語と算盤』の著者であり日本の資本主義の父と言われる渋沢栄一は、社会公共事業にも力を注いだ人物である。渋沢の「人々の幸福のために生きる」という姿勢を通して、生徒一人一人が社会の成員であるという自覚を深め、進んで社会と関わりをもつて生きようとする意欲を育てたい。  
 東京都北区西ヶ原には「渋沢史料館」が、埼玉県深谷市には「渋沢栄一記念館」がある。

◆メッセージ「一中生に、声をかけて下さい！」

危機的状況の中で、何か自分たちにできることはないだろうかという思いから、岩手県大船渡市立第一中学校の生徒たちは立ち上がった。がれきの撤去や炊き出しを手伝う姿は、地域の心を束ね、被災した多くの人々の心を明るく照らし、励ました。新聞の「今こそ出番だ」という言葉からは、生徒たちの意気込みが伝わってくる。できることから始めていけば、それがやがて大きな力となり、社会を支えていく力になることを教えてくれる。よりよい社会の実現に向けて、自分たちはどのように努力すればよいかを考え、進んで社会と関わろうとする姿勢を養うようにしたい。

1 資料の特性

本資料の主人公の筆子は、強くたくましい志で社会を照らし、よりよい社会の実現に向けて生涯をかけた女性である。

女子教育の充実に力を注いでいた筆子は、知的障害のある幼い二人の子供の教育や将来のことで心が晴れなかった。石井亮一から知的障害児教育の夢を聞いた筆子は、共感し共に歩む決心をする。学園の火災で子供たちを失ったことに強いショックを受けるが、子供たちのために再び立ち上がり、自らの選んだ道を進み続ける決意をする。

よりよい社会の実現のために、決して諦めることなく人生を生き抜いた筆子の姿から、自分たちにできることを真剣に考え、社会を構成する一員としての自覚を促し、生き方を問う資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、社会全体の在り方に理想を描くようになるとともに、現実社会と理想との間にギャップを感じ、現状に対する反発心を抱く場合もある。しかし、そのような心境の背後には、よりよい社会を実現したいという思いも隠されている。

また、この時期には、社会福祉施設でのボランティア

- ・ 社会から見放された子供たちを守り切れなかった。
- ・ 自分は思い上がっていたのかもしれない。
- ④ 筆子は、どうして学園を続けようと思ったのだろうか。
- ・ 社会や子供たちが、自分を必要としているのだ。
- ・ 学園の存続を願っている人たちの思いに込めよう。

事例②

筆子や社会奉仕活動などを行っている人の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主な学習】

- ① 亮一から知的障害児教育の夢を聞いたとき、筆子はどういうことを考えたのだろうか。
- ・ 本当にそのようなことができるのだろうか。簡単なことではないだろう。でも、子供たちの可能性を拓くため、自分も一緒にやってみよう。
- ・ 娘たちのためにも、また、よりよい社会づくりのためにも、その夢を一緒に実現したい。
- ② 「私には子供たちの声が聞こえる。」とつぶやいた筆子は、何を思っていたのだろうか。
- ・ 子供たちが私を支えてくれている。私の使命は、私を支え、助けてくれているあの子たちの思いに込めることだ。
- ③ ゲストティーチャー（社会奉仕活動などを行っている人）から、よりよい社会づくりのための活動とその思いについて話を聞いて、よりよい社会づくりに向けた自分自身の具体的な関わり方を考える。

活動などを体験する場合もある。

このような体験を生かして、自分も社会を構成する一員として、他者と共に手を携え、誰もが安心して暮らせるよりよい社会の実現に向けて努力しようとする態度を育てたい。

3 展開例

【ねらい】

社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。

事例①

筆子の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主な学習】

- ① 筆子はどのような思いから女学校を手放し、亮一と共に歩む決意をしたのだろうか。
- ・ 障害のある人や弱い立場の人を救うために自分も役に立ちたい。
- ・ 亮一と共に協力して、弱い立場の人が安心して暮らせる世の中をつくりたい。
- ② 幸子までも失ってしまった筆子は、幸子が刺しゅうしたハンカチを取り、どのようなことを考えたのだろうか。
- ・ 亡くした子供の分まで学園の子を守り育てよう。
- ・ 学園の子供たちを守り育てるのが、自分の使命だ。
- ③ 火事の後、学園を廃止にする決意をした亮一に黙ってうなずいた筆子は、どのような気持ちだったのだろうか。

四の視点 重点ページ

社会に目を向け、社会と関わり、社会を良くする。

1 このページの特徴

四の視点に関わる重点化「社会参画への意欲や態度を身に付ける」に関するページである。誰もが安心して生活できる、住みよい社会の実現のために、自分にはどのようなことができるかを考えることで、生徒一人一人が社会の一員としての自覚を深め、進んで社会と関わろうとする態度を育てたい。

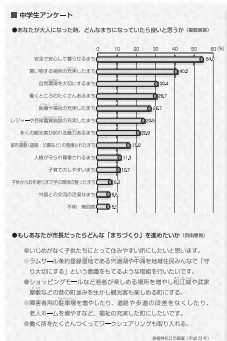
「もし、あなたが市長だったら」という設定では、広い視点から自由にまちづくりへの想像を広げることができる。

2 活用事例

道徳の時間

道徳の時間の導入で活用し、社会全体に目を向けるきっかけとする。

一五一ページの「社会に対する興味関心」のグラフと関連させて、社会参画について考えることができる。



4 社会に生きる一員として  
 (3) 正義を重んじ公正・公平な社会を

P.160~165

4-(3)

正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

社会的な問題でもあるいじめにも深く関わる内容項目である。一六〇ページの文章では、いじめに言及し、それは正義に反する卑怯な行為だと断じている。一六一ページの世界人権宣言では、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考えることができる。また一六二・一六三ページでは、グラフを基にいじめをなくすために何ができるのかを話し合うようになっていく。

これらのページを活用して話し合う中で、深く自分にも問いつけ、公正・公平で差別や偏見のない社会の実現に向けた意欲を引き出すようにしたい。

2 活用のポイント

指導に当たっては、「見て見ぬふりをする」とか、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、差別を憎み、不正な言動を否定するなどの主体性ある態度が養われるよう指導することが大切である。そのため、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を活用するなどして、いじめの防止や解決に向けて主体的に取り組む中学生の姿から、正義が通る公正・公平な社会の実現に積極的に努めようとする態度を育てていきたい。

3 活用場面例

道徳の時間

読み物資料や「人物探訪」を活用して、正義の意味を考え、公正・公平な社会の実現について話し合い、差別や偏見をなくそうと努力する態度を養うようにする。

事例

① 一六一ページの世界人権宣言を読み、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考える。

② 読み物資料を読んで話し合う。

③ 「人物探訪」を読み、差別や偏見について話し合い、それに立ち向かう正義とはどのようなことかを考える。

特別活動（学級活動）

悪いと思うことをやめさせたり、いじめをなくしたりするためにはどうすればよいかを学級で話し合い、解決策を見いだすようにする。



事例

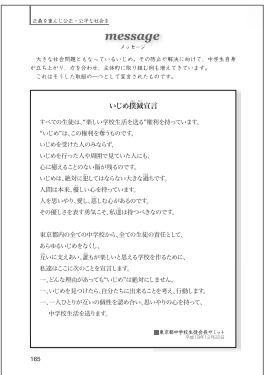
- ① 一六二ページの問いについて、意見を出し合う。
- ② 一六三ページの問いについて、各自それぞれの考えを記入し、発表する。
- ③ 一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を参考に、学級の宣言をグループで起草し、発表し合う。
- ④ 各グループの宣言について話し合い、学級の宣言として一つにまとめ、学級のみんなで守っていくようにする。

特別活動（生徒会活動）

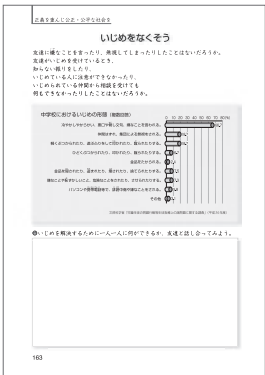
生徒全員が差別や偏見のない学校生活への願いや思いを共有し、正義の実現に向けて積極的な意識をもてるよう、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」などを活用する。

事例

- ① 生徒会役員会が主体となり、「いじめ撲滅宣言」を全校生徒に紹介する。
- ② 生徒会役員会の話を受けて、一六三ページを活用して、学級でいじめ撲滅について考える。
- ③ 学級ごとに「いじめ撲滅宣言」を作成し、学級目標とともに掲示し、実践していくようにする。



P.165



P.163

◆人物探訪（ガンディー）

「全ての人の目から、あらゆる涙を拭い去ることが私の願いである。」

ガンディーは、人種差別に対し非暴力、不服従の方針を掲げ貫き通した。このガンディーの生き方を通して、差別や偏見に対して正義を貫いていくことを考えさせるようにする。

人は誰であっても一人の人間として尊重されねばならない。また、差別や偏見によって不当な扱いを受けてはならない。

差別や偏見に対して怒りを感じ、それを正していきこうとする気持ちがあることにも気づき、自分たちに何ができるかを問い掛けながら、何人にも公正、公平に接し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養うようにする。

◆メッセージ（いじめ撲滅宣言）

いじめの問題は、現代の社会の解決しなければならぬ重要な課題である。生徒自らが立ち上がり、その防止や解決に向けた取組を行うことは、重要なことである。

東京都中学校生徒会長サミットの「いじめ撲滅宣言」は、差別や偏見に対する自己の考えを振り返るきっかけとなるだろう。この宣言を様々な視点から活用するようにしたい。

4 社会に生きる一員として

(4) 役割と責任を自覚し集団生活の向上を

P.166~171

4-(4)

自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

1 この内容項目のページの特徴

人は様々な集団や社会の一員として生活を送っている。本内容項目は、その集団における自己の生き方を考える内容である。

一六六・一六七ページでは、集団において他者と協力して自己の役割を全うしようとする例として、オーケストラの写真が掲載されている。一人一人が奏でる音は、仲間と心を一つにして表現されることで、より美しい音楽となる。家庭、地域、学校、学級、委員会活動、部活動など様々な集団に属する生徒たちに、集団の一員としての自覚を促すような内容になっている。また、一六八ページでは、自分の所属する集団を確認しながら役割や責任について考えることができる。

これらのページを活用して、集団における自己の役割と責任を自覚して、自己の役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする態度を養うようにしたい。

2 活用のポイント

人は決して一人で生きていくのではなく、所属する集団の中で励まし合ったり支え合ったりしながら生活している。集団においては、各々の役割を自覚し、責任をもってそれを果たすことが重要である。また、集団の目標は各々異なっているが互いに排他的にならずに尊重し合い、

集団生活の向上に努めることが大切である。そのため、集団の中での役割や、集団をよりよいものにするためにやってみようなどについて、自分のことを振り返って具体的に考えさせるようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一七〇ページの「はやぶさプロジェクト」のコラムや一七一ページの「この人のひと言」を活用して、集団の中で自己が輝き、そして集団も発展するということがどのようなことか、そのために何が必要かを考える。

事例

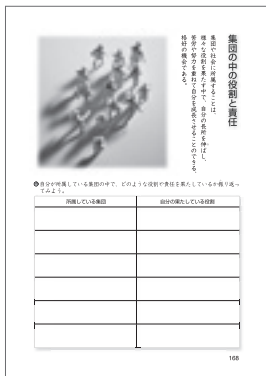
- ① 「この人のひと言」を読み、考えたことについて話し合う。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ コラム「はやぶさプロジェクト」を読んで、各自の役割と責任、そして集団の目標について話し合う。

特別活動（学級活動）

学級における自己の在り方や学級の仲間相互の関わり方について考え、学級生活の向上のために、自分の役割と責任を果たしていこうとする態度を養っていく際に、一六六から一六九ページを活用することができる。

特別活動（学校行事）

例えば、合唱コンクールや体育祭などの学校生活における行事等、集団の成員が力を合わせ結束しなければならぬ機会がある。指導の初期段階で一六七ページの書き込み欄を活用して目標を確認し合い、さらに一六八ページへの記入を通じて自己の役割や責任について一人一人に自覚させることができる。結果や出来映えのみに意識が集中しないよう留意し、集団の望ましい在り方について考えることができるようにする。



P.168

コラムへはやぶさプロジェクト

壮大なプロジェクトは、メンバーの一人一人が自己の役割を全うし、互いに支え合いながら、心一つにして努力を続け、数々のトラブルを克服して達成された。「はやぶさプロジェクト」の取組を通して、集団の力を高めるために何が必要なのかを考えることができる。

(道徳の時間の学習展開の例)

- ① はやぶさの写真や映像を提示する。
- ② コラムを読んで話し合う。
- ③ エンジントラブルに見舞われた時の川口淳一郎氏たちの思いについて話し合う。
- ④ 一六七ページを読んで、集団として目標を達成するために大切なことを考え、話し合う。
- ⑤ 一七一ページの格言を読み、集団の役割と責任について考えを深める。

◆この人のひと言

「自己形成がある程度まで進んだら、比較的大きな集団に加わり、他人のために生き、

我が身のことを忘れるほど、これが自分の義務だと感じた活動に身をていするのが望ましい。

人間は、そうやって初めて自分自身を知ることができる。」

ドイツを代表する文豪、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、フランクフルトに生まれた。自然科学にも興味をもちながら、シラーとともにドイツ文学における古典主義時代を築いた人物である。彼の言葉から、人は一人では生きられない、集団の中で自己を輝かせることによって自己の存在を感じ取ることができるのだという思いが伝わってくる。

4 社会に生きる一員として

(5) 勤労や奉仕を通して社会に貢献する

P.172~177

4-(5)

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとって、働くことに対する関心や意識は決して高いとは言えない。しかし、この時期に勤労の意義について考える機会をもつことは、将来に向けて有益なことである。一七二ページでは、働くということの意味を文章と四つの写真から考えられるようになっていく。一七三から一七五ページは、ボランティア活動や職場体験活動等の例示を含め、働くことの実感や意義、社会との関わりについての文章や問い掛けで構成されている。

2 活用のポイント

中学生の段階では、働くということとは、現在の自分にとっては無関係という捉え方がちである。しかし家庭や地域、学校において行う様々な活動の中には、仕事と同様に、公共の福祉と社会生活の発展・向上につながるものも多いということに気付かせるようにする。

また、自己の進路と関連して一七五ページの問い掛けなどを通して、働くことは何らかの形で社会に貢献するものであるということに気付くこともできる。この時期に勤労についての正しい理解を促すことは、学ぶことの意欲を高める上で大切なことである。

める上でも大切なことである。

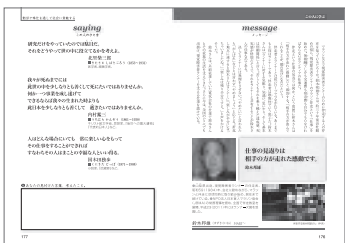
3 活用場面例

道徳の時間

職場体験活動等を通して、勤労の尊さについて考えるとともに、そうした活動がもたらす充実感を知り、働くことによって生きがいのある人生を実現しようという意欲を高め、公共の福祉と社会の発展に努めようとする態度を養うようにしたい。

事例

- ① ボランティア活動や職場体験活動等を振り返りながら鈴木邦雄氏の「メッセージ」を読む。
- ② 「相手の方が喜んでくれることが、僕の喜び」という鈴木氏の言葉から働くことの意義について考える。
- ③ 「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」の「見返り」の意味を考え、話し合う。
- ④ 一七六ページの「この人のひと言」の言葉に触れながら、働くことと社会貢献との関わりについて、自分なりの考えをまとめる。



P.176~177

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(3) 学業と進路」の「エ 望ましい勤労観・職業観の形成」の指導に当たって、一七三ページを活用して実際に働いている人にインタビューし、それを基にして働く目的と意義について話し合う。

また、将来自分がどのような職業に就き、どのように職業生活を送るかについてグループで話し合い、生きがいのある人生を築こうとする意欲を高める。

総合的な学習の時間

一七二から一七五ページに掲載されている写真から様々な職業があることを理解するとともに、社会が様々な職業で支えられ、仕事が生かされるように関わり、貢献しているのかについて考える。その上で、仕事についてテーマを決めて調べてまとめ、発表する。

◆この人のひと言

「人はどんな場合においても 常に楽しい心をもって その仕事をする事ができれば

すなわちその人はまことの幸福な人といえる。」

明治期に活躍した国木田独歩の短編小説『日の出』による。明治二十一年一月一日のとある海岸。財産を使い果たし海に身を投げようとする青年が、初日の出を見に来た老人の言葉で思いとどまる。老人は「初日の出だ。神々しいじゃないか。」と青年に声を掛け、家に招き、雑煮を振る舞いながら、「日は毎日、出る、人は毎日働け。そうすれば、毎晩安らかに眠られる。」と諭す。青年は生まれ変わったように働き資産家となり、老人が亡くなった後小学校をつくり老人の息子に託す。「この人のひと言」は、里帰りし訪れた卒業生に、校長として働く老人の息子が語った言葉である。これに続けて「人は人以上の者になることはできない。しかし人は人の能力の全部を尽くすべき義務をもっている。この義務を尽くせば英雄である。」とも語っている。

◆メッセージ（鈴木邦雄）

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」

会社に勤めながら視覚障害者ランナーの伴走者としてボランティア活動を始めた鈴木邦雄氏の生き方に触れる。

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」という言葉の中にある仕事の本質的な意味や、人生における仕事の役割などについて考えさせたい。



4 社会に生きる一員として  
 (6) 家族の一員としての自覚を

P.180~193

4-(6)

父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもつて充実した家庭生活を築く。

1 この内容項目のページの特徴

家族の一人一人が温かい信頼関係や愛情によって結ばれていることを自覚することは、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

一八二ページの文章や問い掛けを通して、家庭や家族についての考えを整理し、一八二ページでは、グラフを通して家族との語らいについて振り返るようになっていく。また、一八三ページの文章では、家族を「命の長いつながり」と捉え、いずれ自分が築く家庭へと思いを馳せることができる。さらに、コラム「誰かのために」では、家族の一員としての自覚、家族の絆について考えることができる。

2 活用のポイント

自我意識が高まる中学生の時期では、家族に対して反抗的な態度をとることがあったり、家庭や家族から少し距離を置こうとする傾向が見られる。このような時期に家庭や家族について深く考える機会を設けることは大切なことである。

指導に当たっては、自分自身の家族のことや家庭生活のことを振り返るページを活用するなどして、自分と家族との関わりについて考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させるようにする。

とができる。また、母親が作ってくれた最後のお弁当を食べた子供の気持ちについて話し合うことができる。

④ 家庭や家族について自分自身が感じたこと、考えたことを一八五ページの書き込み欄に記入して発表する。

■ 社会科（公民的分野）

内容「(1) 私たちと現代社会」の「ア 私たちが生きる現代社会と文化」において、社会的存在としての人間、社会集団における家族の機能の指導に当たって、自分と家族との関わりを考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させる際に本項目のページを活用する。

■ 技術・家庭科（家庭分野）

内容A「(1) 自分の成長と家族」及び「(2) 家庭と家族関係」の指導に当たって、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考えるときともに、家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域との関わり、家族関係をよりよくする方法を考える際にこの項目のページを活用する。

事例

① 一八二ページのグラフなどを見て、自分と家族とのコミュニケーション（関わり合い）について、振り返る。また、その状況について、友達と意見交流する。



P.182~183

また、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力できるような態度を養っていくことも大切である。  
 なお、様々な事情により多様な家庭環境があることを踏まえ、生徒一人一人の家庭環境について十分に配慮した指導が必要である。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

本項目の書き込み欄に記入した生徒の思いを家庭で話し合ったり、家族に思いを書き込んでもらったことを、道徳の時間の学習に生かしたりするなどして家庭と連携した活用を図るようにしたい。

事例

① 一八〇・一八一ページを読んで、家族や家庭について考えたことを一八一ページに記入する。  
 ② 読み物資料「二冊のノート」を読んで話し合う。  
 ③ 一八四・一八五ページのコラム「誰かのために」を読み、余命三か月と診断された患者とその家族の生き方から家族についての考えを深める。例えば、「子供の卒業式まで生きたい。」という言葉や最後の力を振り絞ってお弁当を作る様子などから、無私の愛情をもって子供を育てようとする母親の姿について話し合うこと

② 自分にとつての家庭、また、地域と家庭との関わりについて考え、話し合う。

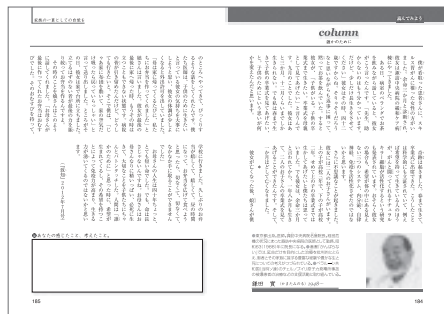
③ 家庭生活をよりよくするための家族の関わりについて話し合う。

④ 一八三ページを読んで、将来、自分が築きたい家庭をイメージして、自分の考えをまとめ、友達と意見交流する。

◆ コラム「誰かのために」

鎌田實氏が最期を看取った患者とその家族との関わりから、自分の成長を願い、無私の愛情をもつて育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることができる。

余命三か月と知りつつも子供の卒業を見届けたという母親の姿、その思いをしつかりと受け止めている子供の姿を押さえた。  
 生きる力が湧いてくるのはなぜなのかを考え、家族の深い絆について捉えられるようにしたい。



P.184~185



1 資料の特性

人間は、過去からずっと受け継がれてきた命のつながりの中で生きている。家族とは、自分を育ててくれた祖母や父母をはじめとする最も身近な共同体である。本資料には、主人公である「僕」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、その奥にある祖母の思いが描かれている。トラブルから祖母に不満を感じる「僕」だったが、ある日、一冊のノートを見付け、そこに書かれていた祖母の苦悩と、家族のことを思い続ける気持ちを知る。その一冊のノートを読んで、いたたまれなくなった「僕」。その「僕」の思いを伝えることを通して、家族を大切に思う気持ちを感じ、家族の一員としての自覚を深めることができるとともに、家族のかけがえのなさを再認識させてくれる感動的な資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。そのため、父母や祖母の言動に反抗的になるという面も見られる。また一方で、家族の一員として、役割を担うことで家庭の仕事の大変さや家族の有り難さが分かっていくこともある。

本資料の活用にあたっては、家族との関わりを振り返らせながら、家族が相互に深い絆で結ばれていることを自覚し、家族に感謝することがより充実した家庭生活を築くことにつながることを生徒一人一人に深く考えさせたい。

なお、家族の姿も一様ではないので、様々な事情を抱えている生徒に対して十分な配慮が必要である。

3 展開例

【ねらい】  
かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、家族の一員としての在り方を考える展開

【主な学習】

- ①薬局の前で祖母に出会ったとき、友達に気付かれないうように知らん顔をして通り過ぎたのは、どのような気持ちからだろうか。
- ・変な格好をしている祖母の姿が恥ずかしい。
- ・自分の祖母だと周りに気付かれたくない。
- ②父の話を聞いたとき、何も言えなくなったのはどうしてだろうか。
- ・現在の医学では治せない病気なのだから、これ以上言っても仕方がないと思ったから。
- ・幼い頃から祖母に身の回りの世話をしてもらうなど、何かと祖母に頼っている自分に気付いたから。

- ・自分が責めたときの、祖母の寂しそうな姿を思い出したから。

③黙って祖母と並んで草取りを始めたのは、どのような気持ちからだろうか。

- ・祖母が一番苦しんでいることを知り、いたたまれない気持ち。ひどいことを言って、ごめんなさい。
  - ・こんなにも大切に思ってくれていることへの感謝と、祖母を責めたことへの後悔の気持ち。
  - ・これからは祖母を大切にしたいという気持ち。今度は自分が祖母を支える番だ。
- ④家族の一員であるとは、どのようなことだろうか。

事例②

祖母の思いを通して、家族の一員としての在り方を考える展開

【主な学習】

- ①「誰だって年を取ればしわもできれば白髪頭にもなってしまうものよ。」と言った祖母の気持ちは、どのようなものだっただろうか。
- ・年を取ってしまったことの自覚とともに寂しさを感じている。
- ・自分はきちんとしていないつもりなのに、孫から厳しい口調で問い詰められ、悲しい気持ち。
- ②「あと十年、いや、せめてあと五年、何とか孫たちの面倒を見なければ。」と書いた一冊のノートには、祖母のどのような思いが込められているのだろうか。
- ・自分の孫たちに迷惑をかけているのだろうか、何とか孫たちのために自分ができることをしてあげたい。

